

平井学区の住民皆さんへ

看護学生、発信！！

一緒に健康を考え、健康づくりに貢献しよう！！

山陽学園大学看護学部看護学科

山陽学園大学看護学部看護学科は、平成21年に開設しました。平井学区の皆様に見守られ、おかげさまで4年目が過ぎようとしています。

「平井学区に看護学科があることを、住民方々の健康づくりの強味としていただきたい。」という看護学生、教員の願いを実現するため、平成25年5月11日（土）に、大学拠点の健康イベントを開催することになりました。

その準備として、平成24年12月～3月、看護学科3年生56人は、病院実習の合間を縫って平井学区の健康に関する情報収集やその分析、発表会を行いました。

平井学区の姿を「みる・あるく・きく」という地区踏査では、道中、住民の方と話が弾み、畑で収穫された大根まで頂いた学生もいました。そして、平井学区は、幹線道路や大型店、病院・医院が多く、子育て家庭も多く住む活気のある街である半面、狭くて危険な歩道、孤立しがちな一人暮らし高齢者のこと、情報が入りにくい引きこもりがちな人のこと、外遊びをしない子どものことなど、様々な健康上の課題があることに気づきました。学生は、毎日大学に通う中で、これほど平井学区に関心を持って、丁寧に見つめたことはありませんでした。



また、1月10日に行われた看護学部棟での座談会では、平井学区連合町内会および関係組織の代表の方々10人が参加され、組織活動の様子や、最近気になる地域のことなど、学生と話し合いをして下さいました。

昨年度、連合町内会は大学と災害避難の協定を結び、災害対策への取組を強化していますが、これまでの情報から、学生は以下のことを考えました。

- ・ いざ、災害が起こった時に、住民は皆、元気で避難できるのか。
- ・ 避難生活が健康を悪化させるのではないか。大学の備えは不十分ではないか。
- ・ 日頃から健康でいることが何よりも大切なのではないか。
- ・ 子どもから高齢者まで、体力の向上も目指すべきではないか。
- ・ ご近所同士で助け合える関係が必要なのではないか。

つまり、大学は、災害に負けない地域の健康づくりも視野に入れなければならないということがわかりました。



3月1日の発表会は、笠岡市白石島の地区踏査に取り組んだチームと合同で行い、都市部の平井学区にも、取り組むべき課題が多くあることを、皆で理解しました。

1月の座談会に引き続いて、助言者として参加して下さいました5人の組織代表の方々からは、「災害に備えた健康の維持

はとても大切。そのための情報提供に励んでほしい。」「災害時要援護者支援を今後どうしていけばよいか、提案してほしい。」「町内だけでは取り組めないAED設置状況等、地域の調査に是非取り組んでほしい」「看護学科をもっと活用したい。大学との連携を強めていきたい。」といった応援のメッセージを頂きました。



学生は、「学生の立場でも、地域の役に立てることがあるとわかって嬉しかった。」「住民の方々と一緒に、これからも平井学区の健康を考えていきたい。」「地域に目を向け、気づきを言葉にし、発信し続けることが大切だとわかった。」と、大いに励まされました。

5月の健康イベントは、まだまだ企画を練っている段階ですが、「まずはやってみよう、発信してみよう。」と、看護学生ならではの知識と工夫を盛り込んだ内容を予定しています。

えう！ご期待！

